

冤罪 枚方談合事件

明らかになった真実

～このまもうやむやにしていけない～

4年前の枚方談合事件は冤罪であり、中司宏前市長は無実です。私たち「中司宏を支援する会」は、この事件をうやむやに終わらせることなく、当時マスコミで報道されなかった真実を求め、明らかにしていくため、署名活動を行いました。

検 察

「中司が小堀に談合を指示した」との誤ったストーリーで、物的証拠がないまま逮捕。否認しても恫喝・脅迫を繰り返し、拷問のような取り調べで調書にサインを迫った

裁 判

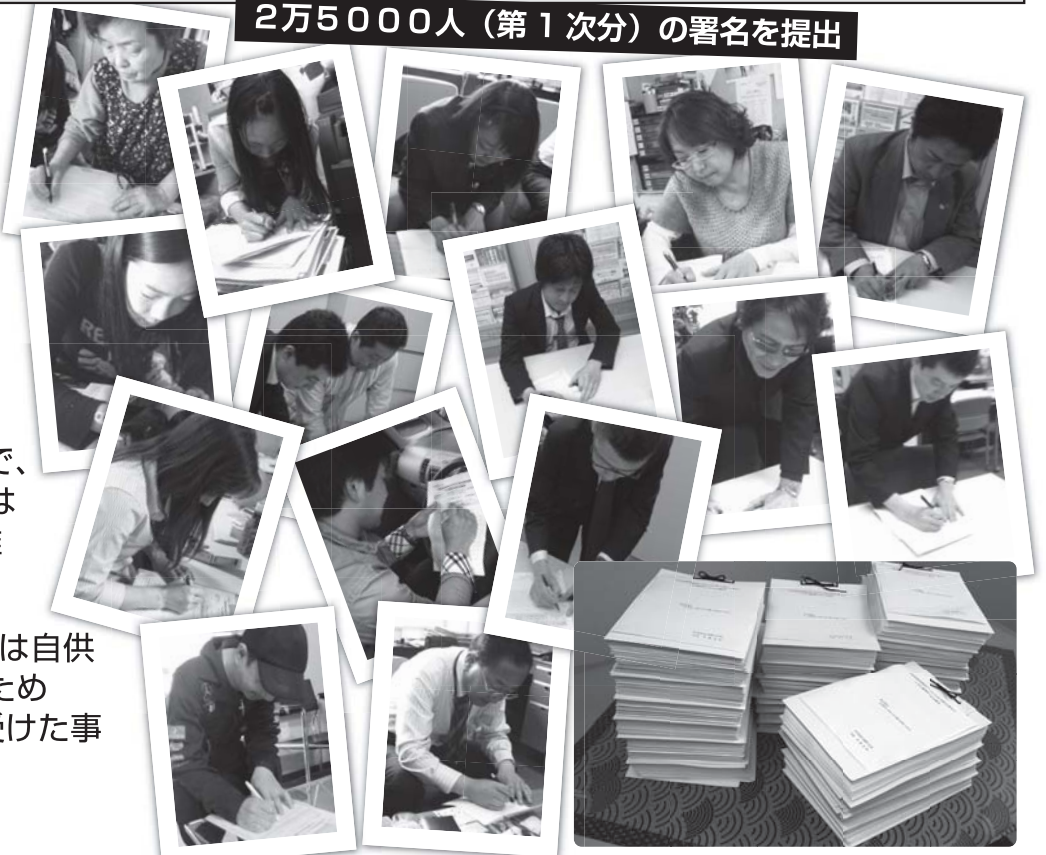
金銭などの見返りは一切なく、小堀副市長が無罪で、官製談合でもなかったと判決でも認められ、実質は無罪なのに、(談合を止めなかったという)不作為が「推認される」との理由で有罪

マスコミ

「小堀副市長が自供」と各社が報道→小堀さんは自供していないのに、検察がウソのリークをしたため「市長、大林組から頻繁に接待」(日経)→一度も接待を受けた事実はなく、名誉毀損で訴訟中

「中司宏を支援する会」では真実を求めて署名活動を展開

2万5000人(第1次分)の署名を提出



4年前のマスコミの一方的な報道を信じる人も多い中、

「中司さんはマニフェストを導入して改革を進めてきた人。こんな事件を起こすような人ではないと信じていました」(70代男性・香里在住)

「郵便不正事件の村木さんが陥られたのと同じですね」(30代女性・牧野在住)

「この事件は初めからおかしいと感じていました。」

やはり思った通りでした」(60代男性・楠葉在住)

「検察による誤った国家権力の行使は、民主主義とは正反対で許せません。無罪を勝ち取るよう祈っています」(80代女性・中宮在住)

「市はきちんと発注しており、官製談合ではありません」

(50代男性・市職員)

「枚方市全体の名誉のためにも頑張ってください」

(40代女性・市職員)

「中司さんは冤罪被害者です。」

ともに闘っています」

(前福島県知事の佐藤栄佐久さん)

「判決は不当です。中司さんが無罪になるまで私の闘いも終わりません」

(前枚方市副市長の小堀隆恒さん)

などなど、たくさんの
反響がありました。

東日本大震災で被災された方々に
心よりお見舞い申し上げます。

【発行】「中司宏を支援する会」

〒573-0022 大阪府枚方市宮之阪 1-22-8
TEL 072-898-3100



枚方談合事件とは

枚方市が発注した清掃工場の建設工事をめぐり、大阪地検特捜部が「官製談合(市役所が手引きした談合が行われた)」として平成19年5月末に市役所に家宅捜索に入った。工事は平成17年11月に一般競争入札が行われ、大林組を中心とするJV(共同企業体)が落札していた。

特捜部は、当時の大林組顧問や大阪府警捜査二課の警部補、枚方市の小堀隆恒副市長、大阪府議会議員らを逮捕。捜査過程で、警部補が大林組から一千万円を受け取っていたことなどが発覚し、現職警察官が絡む贈収賄事件に発展した。

警部補は、談合捜査のエキスパートとして、以前から中司市長に対し、談合防止のための入札・契約制度の改革についてアドバイスをしていた人物で、本工事についても「談合されている」との事前情報をもたらした、談合防止策などについて助言していた。

中司市長は、捜査着手から2ヵ月後に、物的証拠もないまま談合容疑で逮捕された。市長が収賄のない談合で逮捕された前例はなかったが、市政混乱の責任を取り、4期目就任後4ヶ月余りで市長を辞職。

「官」側の中司市長と小堀副市長が談合に関与していたかどうかについて、検察内部でも意見が分かれてい

た。当初特捜部はこの2人に金銭の授受があったと見誤って「談合・贈収賄事件」のストーリーを組み立て、強制捜査に踏み切った。しかしそのような事実はなく、最終的には談合容疑のみでの異例の起訴となった。

入札に当たっては市は、競争性を高め談合を防ぐために、指名競争入札ではなく一般競争入札を行うとともに、予定価格と最低制限価格の公表、電子入札の実施など、全国的にも進んだ入札制度を採用。予算額を厳しく精査したため、落札価格は、当時の全国の清掃工場の平均価格を約20億円も下回っていた。

中司市長は、連日深夜に及ぶ恫喝や脅迫を伴った常軌を逸した取り調べの末、談合の事実を認めていないにも関わらず、検事作成の供述調書に無理やりサインさせられたが、公判廷では一貫して無実を主張し、供述調書の任意性も否定した。

一方、担当した検事は法廷で、取り調べでは大きな声を出していないと虚偽の証言をし、最高検通知で一定期間保管しておくべきとされている取り調べのメモも破棄していた。

小堀氏は平成21年4月、大阪地裁が無罪判決を下し、検察側も控訴を見送ったため無罪が確定した。中司氏は同月、大阪地裁で懲役1年6月執行猶予3年の有罪判決。22年11月に大阪高裁で控訴が棄却され、現在、最高裁に上告中。

中司宏さんに聞きましたQ&A

Q マニフェストにもとづき市政改革をしてこれたのになぜ談合事件に？

A 全国で初めて市政にマニフェストを導入し、着実に改革を実行してきました。その中で、枚方市の入札・契約の制度を全国的にも進んだ制度に見直してきたことは、裁判でも認められました。そうした改革を進めるにあたっては、談合捜査のエキスパートの大阪府警本部の警部補にアドバイスを受けていました。

後で分かったことですが、その警部補が、私の知らない間に画策し、大林組から大金を受け取っていたのです。

Q 検察に問題視された大林組との接点は？一部マスコミ報道で接待されたとありましたが？

A 別の工事の談合を未然に防ぐため、情報を得る目的で大林組の幹部とホテル会議室で会いました。しかしそれは入札から6年も前で、まだ清掃工場を事業化するメドさえ立っていない時期であり、清掃工場の談合の話など出るはずがありません。

また、大林組から、金銭はもちろん、接待を受けたことは一度もありません。「接待を受けた」などといいかげんな記事を書いた日経新聞を名誉毀損で訴えています。

署名のお願い

「中司宏を支援する会」では、中司さんが無罪を勝ち取れるよう、裁判に関する活動を支援するとともに、この冤罪を生み出した大阪地検特捜部の捜査の誤りを指摘し再調査を求めると同時に、二度とこのような冤罪が起きないように、取り調べの可視化など刑事司法制度の改革を働きかけることを目的に活動しています。

その一環として、(1)「大阪地検特捜部事件の調査・検証と取り調べの全面可視化を求める署名」(2)「大阪地検特捜部が手がけた枚方談合事件の十分な審理を求める署名」を募っています。

去る平成23年4月20日に、第1次分として約2万5千人の賛同者署名簿を法務大臣、最高検察庁、検察の在り方検討会議、最高裁判所にそれぞれ提出しました。第2次分は6月10日に提出する予定です。

署名の趣旨にご賛同いただける方は、6月5日までに下記のいずれかの方法でお願いします。

(すでに署名用紙で署名をしていただいた方は重複して署名できません。ご了承下さい)

- ① [中司宏を支援する会](#) からダウンロードした署名用紙に署名していただき「中司宏を支援する会」事務所(〒573-0022 枚方市宮之阪1-22-8)に送って下さい。
- ② 電話で事務所(072-898-3100)までご連絡いただければ用紙を郵送いたします。
- ③ 右上のQRコードから、携帯電話などでオンライン署名をして下さい。

検察の取り調べはどんな状況でしたか？

取り調べの実態(イメージ)

取り調べでは恫喝と脅迫

A 勾留中、深夜に及ぶ取り調べの後で、毎日内容を被疑者ノートにできるだけ正確に書きとめました。そのノートをもとに月刊「正論」に投稿した手記を読んでいただけでは、めちゃくちゃな取り調べの実態が分かっていただけます。だから、取り調べの全面可視化は絶対に必要なのです。

(ブログ [中司宏の航海日誌](#) [検索](#) →リンク集・「正論」掲載手記)

「検察をなめてるのか」「口だけの卑怯者」「最低のハリボテ人間め」「丸裸にして徹底的に追及してやるぞ」・・・私が否認するので検事は荒れ狂い、大きな音を立てて机や椅子を蹴り、ののしり、怒鳴りまくりました。自分だけがそんな目にあうならまだしも、清掃工場建設のため苦勞をともにした市職員、さらには市長選で応援して下さった後援会や事務所の人など、事件と全く関係のない人たちまで家宅搜索され、連日長時間にわたって調べられ、逮捕の恐怖に苦しめられていると思うと本当に辛かったです。

検事から「小堀を助けたくないのか。薄情なやつだ」と責められ「お前のせいで周りの人が迷惑するぞ」と繰り返し脅されるうち、正常な判断ができなくなっていました。そして、「自分はどうなっても、もうこれ以上逮捕者を出すことはできない」という思いと、拷問のような取り調べがいつまで続くのかという恐怖感、何を言っても嘘つき呼ばわりされる挫折感から、認めてもない調書にサインをしてしまったのです。この辛さと悔しさは、経験したものでなければ理解できないでしょう。そのときは、裁判で本当のことを話せば絶対に分かってもらえると思っていた。

私を取り調べた検事は、大きな声すら出していない、と平気で虚偽の証言をしましたが、二審の判決では、検事が長時間にわたって恫喝や脅迫を行うなど、執拗に調書にサインを迫ったことが明らかになりました。

Q なぜ市長を辞職したのですか？ 政治活動等に制限はありますか？

A ああ、嵐のようなマスコミ報道の中では、何を言っても信じてもらえず、混乱の責任を取って辞めなければもっと悪者に仕立てられていました。今でこそ大阪地検特捜部の過去のデタラメな実態が明るみに出ましたが、当時は真実を述べても聞き入れられず、有無を言わず引きずり降ろされた感じです。

今、無実を訴えて最高裁に上告中です。1、2 審で執行猶予が付き、また、公民権が停止されることはありませんので、政治活動することや選挙で公職に就くことへの制限は何らありません。

中司宏を支援する会 代表 和泉 克弥
<http://nakatsukashiennokai.web.fc2.com/>



QRコード
署名(1)



QRコード
署名(2)